

「音読の宿題は毎日絶対に出して！」

— 小学部 国語「ニャーゴ」 —

大阪大学医学部附属病院分教室

1 はじめに

本分教室に在籍している児童は、心臓疾患、小児がんなどの長期入院を必要とする疾病で大阪大学医学部附属病院の小児科に入院しており、治療を受けながら学習している。体調が良い時には分教室に登校し、体調がすぐれない時や受けている治療によってはベッドサイドで授業を受けている。また、投薬の関係などで倦怠感があるときや、免疫力が著しく低下しているときは学習ができないこともある。さらに、長期入院という環境的な制限があるため、日常的に接するのはほとんどが大人であり、同年代の子どもと接する機会が乏しい。そのため、自分の気持ちや考えを言葉で伝えなくても汲み取ってもらえることに慣れている児童も多い。また、治療が第一優先のためやりたいことができず、患者として受け身であることを求められる状況である。そのため、児童が自分で考えて選ぶ経験を補ったり、その日の体調や気持ちを言葉で伝える機会を設けたりするために、毎回の授業の流れを最初に児童と教員と一緒に決めてから授業を始めている。

2 実践の内容

(1) 授業の構造

本教材「ニャーゴ」は、中心人物であるねこが、子ねずみたちと関わる中で、子ねずみたちを食べることを諦める物語である。本文中には題名にもなっている「ニャーゴ」というセリフが三回出てくるが、ねこの心情は場面によって大きく異なる。そのため、それぞれの「ニャーゴ」を言い換えるとどのような言葉になるのかということをもとに前後の内容をもとに考えることで、より物語を味わうことができる。また、登場人物のセリフが中心となって物語が進むため、想像したことを音読で表現する力を身に付けることに適した教材である。また、心情を読み取りやすいセリフが多いため、セリフごとに音読での表現方法を考える活動を取り入れることで、気持ちを込めて音読しやすい教材である。

本単元では本文を場面よりも細かく分けて読み進め、登場人物の様子や心情、次の展開などを児童がより想像を膨らませられるように計画した。また、想像したことを教員と伝え合う中で、物語を読むことの楽しさを伝える。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
10分 導入	①あいさつ ②本時の学習の流れの設定 ③漢字の学習 ・漢字ドリルをする。	<ul style="list-style-type: none"> 無理なく学習することができるように、児童とその日の体調などの話をしながら学習の順番を一緒に考える。 見通しをもって活動に取り組むことができるように、前時に作成した単元計画をもとにどの場面を学習するかを確認する。 漢字を単に書くだけでなく定着するように、書き順や読み、その漢字を使う言葉などを一緒に

I 実践報告

		<p>に確認しながら進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字に興味を持てるように、生活につながる言葉をイメージさせる。
30分 展開	<p>④前時で学習したことの振り返り</p> <p>⑤第二場面の前半 (P. 121 7行目～P. 121 9行目)の内容を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二場面の前半を音読する。 第二場面の前半での出来事や登場人物の言動をまとめる。 <p>⑥登場人物の心情に合わせた音読の仕方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような声で「ニャーゴ」のセリフを音読すると、ねこの様子を表すことができるか考え、音読する。 「ひそひそ声」はどんな声で、どんな時に使うか考え、音読で表す。 場面を表す題名を付ける。 第二場面の前半 (P. 121 7行目～P. 122 9行目)を通読する。 第一場面から第二場面の前半 (P. 120～P. 121 9行目)を通読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面のつながりを意識できるように、前時でまとめた出来事や登場人物の言動を振り返ったり、音読したりする。 場面の全体の流れが理解できるように、登場人物ごとに言動をまとめる。 児童が自ら進めることができるように、前時のまとめ方を振り返りながら進める。 「ニャーゴ」に込められたねこの心情を想像できるように、第一場面でのねこは子ねずみを食べる存在であるという記述について振り返る。 子ねずみの様子や心情を具体的に想像できるように、これまで日常生活で経験してきたことや、「声のものさし」と結びつける。 各場面のつながりがわかりやすくなるように、第二場面前半の内容を表す題名を付ける。 音読をするときに登場人物の心情などを意識しやすいように、音読をするときのキーワードとなる言葉印をつける。
5分 まとめ	<p>⑦振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを記入する <p>⑧あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次の学習も見通しをもって意欲的に取り組むことができるように、本時で学習したことや、頑張ったことなどを一緒に振り返る。

(2) 授業の流れ

授業全体の流れについては、児童は多くの場合「あいさつ」「漢字」「教科書」「振り返り」「あいさつ」の順で設定するため、その流れで事前に設定した。漢字の学習は、本文に出てくる漢字ではなく、児童のペースで進めている漢字ドリルの続きを行う。書き順や成り立ちなどに注目することで、単に漢字ドリルを進めるだけでなく、少しでも漢字に興味を

I 実践報告

持って取り組むことができるようにする。「ニャーゴ」については、本時で扱った場面は本文中に三回ある「ニャーゴ」というセリフのうち、一回目が出てくる場面である。そのため、場面ごとのねこの心情の変化を捉えられるように、本場面での「ニャーゴ」には、ねこのどのような気持ちが込められているのかということを抑えることが必要となる。また、考えた心情について教員と意見を出し合い、読み取り方は一つとは限らないことに気づかせる。まとめの段階では、振り返りシートを活用して本時の内容を振り返るとともに、教員からも授業での取り組みの様子などに関するコメントを書くことで、次の授業への意欲につなげる。

3 事例検討

(1) 児童の様子

今回の授業の対象である児童はコミュニケーション能力が高く、口頭では自分の考えなどを伝えることができるが、書くことになると苦手意識がある。また、想像力豊かで、1学期の授業では、登場人物の様子を表す言葉やセリフから心情を読み取ることができていた。一方で、物語が長くなると読むことの集中力が続かなかったり、本文を間違えずに読むことに集中し、内容を深く理解できなかつたりすることがある。繰り返し音読している文章であれば、抑揚をつけて気持ちを込めながら音読することができる。

(2) 授業の様子

振り返りシートのめあてを記入する欄に、「登場人物の気持ちを考えた。」と自分で書いていたことから、児童が本時の目標を理解したうえで、登場人物の心情を想像することができたと思われる。また、登場人物ごとに役割を教員と分けて音読をしたことで、一人で音読するときよりも登場人物になりきって声の大きさや声色を考えて音読する様子が見られた。さらに、これまで進んで取り組んでいなかった音読の宿題についても、「音読の宿題は毎日絶対に出して。」とリクエストするほどになり、物語を読む楽しさを少しずつ感じられている様子が見られた。

4 最後に

今回の授業では、児童が物語を読んで想像したことを上手く引き出すことができず、教員からの質問にのみ児童が答えるといった、淡々としたやり取りになってしまったことが課題である。そのため、今後の授業において発問の方法や内容にバリエーションを持たせ、やり取りが単調にならないようにすることで、児童の考えを引き出すことが必要である。また、活動にメリハリをつけるために抑揚をつけて話すことを心掛け、児童が集中しながらも楽しく授業に参加できるようにしていきたい。現在は小学部児童の在籍状況や登校状況から、ほとんどがマンツーマン授業である。そのため、必要に応じて教員が児童役にもなり、一緒に意見を出し合ったり活動したりすることが必要である。さらに、今後は複数名で行う授業の機会を作り、多様な考え方に触れる経験や、自分の考えや気持ちを言葉にして相手に伝える経験を積ませたい。